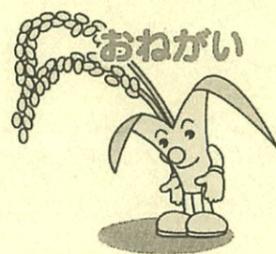


# 農作業特報

魚津市 魚津市農業技術者協議会

高品質で美味しい「うおづ米」は、土づくりが基本です。登熟期間の高温などの気象変動に備え、土への愛情を込めて、元気な土づくりをお願いします。



## 土壌診断の結果に基づく、土づくりの実践！

「土づくり」は作物への効果がわかりにくく、病害虫防除や雑草対策と比べると、ついつい後回しになりがちです。しかし、加里・ケイ酸・鉄分不足が要因とみられる「ごま葉枯病」(写真1)が砂壌土を中心に発生しています。

また、管内の土壌中のケイ酸分が基準量を下回っていることから、「割粃」(写真2)が発生し、斑点米カメムシ類による被害も散見しています。



写真1 ごま葉枯病の病斑

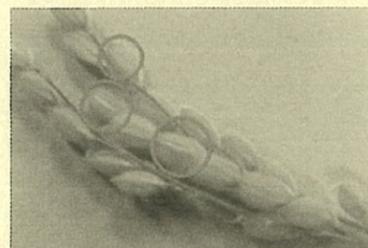


写真2 割粃(円内)

## 「元気な土づくり」のポイント

### ○ポイント1：土づくり資材の施用

土壌酸度の矯正や不足養分の補給 → ケイ酸質資材など土壌改良資材の施用

### ○ポイント2：有機物の施用

腐植含量の増加、物理性改善 → 堆肥や発酵鶏ふんなどの有機物の散布  
地力増進作物の活用

### ○ポイント3：深耕の実施

深耕などによる根域の拡大と稲わらの腐熟促進 → 秋耕と春耕の2回耕起

## ポイント1：土づくり資材の施用

土づくり資材の施用で、葉や根を丈夫にし、病気や倒伏、気象変動に強い稲を作りましょう。

資材名	資材の特徴と保証成分量	10a当り施用量
粒状珪酸石灰	稲体を丈夫にし、倒伏やいもち病の抵抗性が増すとともに、pH矯正に効果があります(ケイ酸30%、アルカリ分45%、苦土4%)	200kg
鉄入りシリカパンチF	土づくりに必要な成分を一度に施用できる、省力的な資材です(ケイ酸25%、アルカリ分42%、鉄分10%、苦土7%、リン酸5%)	100~120kg

## ポイント2：有機物の施用

堆肥や発酵鶏ふんを散布し、地力を高めましょう。

堆肥の種類	「秋」施用の場合	「春」施用の場合
牛ふん堆肥	1~2t	1~2t
豚ふん堆肥	1~2t	0.5~1t
発酵鶏ふん堆肥	100~150kg	75~100kg



- ・堆肥を散布したら、速やかに耕起作業を行いましょう。
- ・春施用の場合、コシヒカリなどは基肥チツソで10aあたり1~2kg減肥してください。(基肥206では10~15kg/10a、Jコトシカ1号または2号では5~10kg/10aを減肥する)

## ポイント3：深耕の実施

作土層が浅いと、気温や水分変化の影響を受けやすく、根が伸びるスペースも少なくなります。秋耕と春耕の2回掛けにより、稲わらの腐熟促進と作土深の確保に努めましょう。

### ○作土深15cm以上を確保する方法

- ・ロータリーによる秋耕と春耕との2回掛けやプラウなどを活用しましょう。
- ・春耕時はトラクターの速度を落とし、ていねいに深耕をしましょう。

### ○稲わらの腐熟を促進し、田植後のワキを改善する

- ・秋耕は気温の高い10月いっぱいに行い、稲わらを腐熟させましょう。
- ・長雨などで、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は、排水溝を設けて、水はけを良くしましょう。



秋の土づくり運動実施中 9月15日~11月15日